

川内南中校区 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和4年8月4日（木） 14：00～15：10

場 所：セントピア 視聴覚室

出席者

市：田中市長、福元副市長、未来政策部長、秘書広報課長、コミュニティ課長他
地域：川内南中校区の2地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民45名
(合計56名の参加)

市政報告 市長

皆さん、こんにちは。川内南中校区でコミュニティトークが開催でき、非常に嬉しく思っている。また、市長就任から1年9カ月が経過し、この間皆様には、様々な面で大変お世話になっており、ご出席の地区コミュニティ協議会会長、議員の皆様を重ねてお礼申し上げる。

このコミュニティトークは、従来から市長と語る会としてずっと続いているが、市民と市長が直接、顔を合わせて意見を聞く会ということで、私も就任から開催している。ところが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は甑島で1回しかできなかった。そして、4月になってから、本土地域を始め、この川内南中校区が、市内全10会場のうちの7カ所目となり。ここで開催でき非常に嬉しく思っている。

就任してからの1年9カ月は、危機管理の1年9カ月で、1つ目が新型コロナウイルス対策、2つ目が大雨対策である。

まず、コロナのことを申し上げるが、6月までは非常に収まっており、令和4年度は収まるかと思っていたが、皆様報道でご存じの通り、7月、8月にはまた、全国で感染者が爆発的に増えてきている。この感染予防は、地道なやり方しかないもので、マスク、手洗いと換気、空気の入替え、3密を避ける。そういう家庭、事業所の取り組みと、それから是非希望される方は、ワクチン接種をお勧めする。

今本市全体で、3回目を接種された方が、66%になっており、さらに3回目から5カ月経つと、4回目の接種券が来るので、ぜひ、希望される方は接種をお願いする。また、12歳以上のいわゆる若い世代も、3回目の接種を勧めているところである。

薩摩川内市も、鹿児島県も全国も統計的に一緒であるが、感染者の大体7～8割を40歳以下の小中学生、それから、赤ちゃんとその両親が占めている。ただ、最近また60歳以上の高齢の方も徐々に増えてきており、昨日は鹿児島県知事が、特に高齢者の接触や行動自粛についてのアナウンスをしているので、市もそれに準じて、感染予防対策をお願いしたいと考えている。

それから非常に悩ましいのが、コロナ対策とイベント開催の関わりであるが、現時点で市の主催、共催の行事は、気を付けながら開催することとしている。6月までは、それで良かったが、今になりますと、ちょっと慎重な吟味も必要かなという

ことになってきている。

直近の行事では、消防団の操法大会が4年ぶりに開催でき、今月16日の川内川花火大会は、開催される予定である。それから、大綱引は、向田側の河川敷で神事と綱練りだけをやるということ、3年前よりは、時間、規模、出席人数を縮小しながら、各自治会、地区コミュニティ協議会の考えがあるかと思うが、基本的には気をつけながら開催していくことで、議論いただきたいと考える。最終判断は、自治会、地区コミュニティ協議会に任せることとなるが、市として現時点ではそういうことでしている。

それから災害、特に大雨対応のことで改めて申し上げるが、一昨年 of 隈之城地区、それから昨年の川内地区、平佐西地区で浸水被害が発生し、改めてお見舞い申し上げます。

今まさに東北地方、北陸地方での大雨の報道もあるように、線状降水帯という予測不能の豪雨がここ2、3年で頻発している。

過去の被災を踏まえ、気象庁に線状降水帯の予報・予測を、早めに正確に出すよう防災関係の会議でも申し上げた。そして7月に2回、線状降水帯の予測が南九州に出され、これ自体は外れたが、やはり雨が降り、7月5日～20日までの2週間で、4回避難指示を甑島や祁答院町地域で出し、なかなかこの雨の予測が難しい状況である。

今報道にあるように、東北地方、北陸地方では、私の記憶であれば、昨日、一昨日に気象庁から線状降水帯の予測は出されていなかったはずであるが、雨の量が時間100mm、1日400mmと、わずか半日、1日で降り、今、被災し災害が継続している状況である。

改めてのお願いになるが、市でも、過去の被災を踏まえ、情報共有のあり方や組織体制の作り方を日々改善している。ぜひ、改めて出席の皆様も、自宅や事業所が、崖崩れ、洪水など、どのような災害に遭うところであるということと、もしもの時はどこに逃げよう、隣に逃げよう、避難所に逃げようっていうことの意識づけを是非お願いしたいと思っている。

災害避難の放送のことであるが、法律上、高齢者避難と避難指示という2つの言葉しかない。避難が入っているが、この意味は、安全な場所に身を置いてくださいということが避難指示には含まれるので、テレビでも出ていたが、1階は床下浸水したが、垂直避難で要介護のお母さんと2階に逃げて無事助かったということがあった。そういった意味で真夜中も避難指示を放送するが、必ず自宅から避難所に逃げなさい。避難しなさい。という意味ではない。日頃から安全な場所はどこかということ、皆さんにも確認をお願いしたいと思っている。

それからの情報共有のことで、災害の気象情報と市からの避難指示発令放送は、防災行政無線で室内も屋外もする。去年の8月から始めた市の公式LINEの登録者が、今1万2,000人おり、情報の出し方としては、非常に早くて正確で良いと思う。家族の誰かがスマートフォンで市の公式LINEを登録されていれば、災害情報やコロナワクチン関係の情報も入るので、日頃から活用いただきたいと考えている。

それから市役所内部のことで、今年、合併18年目に入るが、昨年10月に甑島

振興局を作った。同じく昨年10月から本土4支所を担当する当時の企画政策部の次長も設置した。そして、議会に相談し、今年4月から部制を新しい体制に再編して、仕事を始めているところである。

もう1つ。色々と情報を断片的に話して申し訳ないが、光ファイバー網のことで、私が県議会議員の時から、薩摩川内市域では、光ファイバー網がなく、非常に情報が、通信速度が遅い課題があったが、岩切前市長の踏ん張りもあり、甑島から本土地域の幹線道路に、光ファイバー網が今年2月に全て整備された。活用されたい方は、ご家庭や事業所に引き込みをされて、利用していただきたい。

今後の市の見通しで、今年2月にアフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望というプランを公表した。コロナ禍も3年目になり、令和4年度こそはこれを克服して、令和10年4月までの目標、向こう6年間の展望として、コロナ禍を打破しようということで、公表した次第である。

後ほども申し上げるが、市役所の10年計画も2年後には、また議会に諮るので、市役所の10年計画も作り直す。本日も各地区コミュニティ協議会の振り返りをさせていただくが、48地区コミュニティ協議会の5カ年計画も今年、来年、市役所と一緒に振り返り、作り替えてもらいたいと考えている。

それから、1つ川内港付近のことであるが、川内港は重要港湾から50年目にして、国の直轄事業が去年決定した。3万トン級の大きな船が入る、国際物流ターミナルができる。6年間で160億円、国が初めて直接投資をし、整備されることになっている。

それからご存じの通り、川内港のすぐ隣に川内火力発電所があった。47年間頑張ってきて、この4月に完全に用途廃止された。川内火力発電所の敷地が32haあるが、そこを再利用・再活用しようということで、7月26日に薩摩川内市と九州電力、早稲田大学、リサイクルのナカダイホールディングスと鹿児島銀行、この5者で連携協定し、火力発電所の跡地をサーキュラーパーク九州と、資源循環型、脱炭素型、カーボンニュートラルといった発想で、企業の立地と研究機関の設置に向けて、本格的に動いてまいる。

川内川の左岸側、久見崎町にも久見崎未来ゾーンという32haの敷地造成がほとんど終わり、そのうち16haを来年度から段階的に企業誘致を開始していきたいと考えている。

地域的には臨海ゾーンに位置する川内港、火力発電所跡地それから久見崎未来ゾーンを申し上げたが、薩摩川内市全部、北薩地域、鹿児島県、いずれに対しても非常に大きな良い影響が期待されるのでお知らせする。

それから報道があったが、京セラ川内工場が花火大会、夏祭りを行っていた敷地である第2ブロックに、来年の10月目標で400人雇用規模の工場を作ることが決まっており、近く着工式が行えると聞いている。雇用を生み出すことはエネルギーがいるが、大きな半導体需要があり、今回のこういった流れになってきている。

今日のコミュニティトークは、従来と名前ややり方を少し変えており、この後、地区コミュニティ協議会会長さんに地区振興計画の振り返りをさせていただく。それから、要望の最初の答弁は、副市長や部長がする。なお、その答弁内容はこれまで、市長以下、何回も何回も議論したものの回答になるので、ご了解をお願いします。

最後に、非常に人口減少の中で、自治組織、コミュニティの維持はなかなか難しい問題があるが、私は市町村合併の事務局長もさせていただいた。地区コミュニティ協議会を作る時も、当時市職員でしたので、議会制度と合わせて地区コミュニティ協議会、自治会、これらは非常に重要なものと考えており、様々な課題は皆さんと議論し、よりよくなる方向で、これからも頑張っているため、皆様の率直な意見をよろしく願います。取り急ぎであるが、市政概要の報告とする。

地区振興計画振り返り

【隈之城地区】

- ・ 第4期地区振興計画の34基本方針を振り返り、重点項目の3項目を報告したい。
- ・ 1番目の地区コミュニティ、自治会、ブロック編成というのは、自治会同士のしがらみがあり、対象自治会が協力的でない上に、コロナ禍で自治会ブロック対抗の運動会もなく、ブロック毎開催の会議もないことが拍車をかけ、取り組むことができなかった。今後は、バランス良いブロック編成のメリットを説明する機会を作っていきたいと考えている。
- ・ 2番目のまると支え合い事業は、大変順調に進み、地区の住民にもだいぶ定着し、県の社会福祉協議大会で事例発表もさせていただいた。地域に馴染んでおり、「見守り、声掛け隈之城の輪」というスローガンを作り上げてまいったが、令和3年度から市の方針で事業が社会福祉協議会に移行し、事業ができなくなった。住民からも大変好評だったので、地区コミュニティ協議会独自も考えたが、コーディネーターの人件費や有償ボランティアの利益を充当できるほどではなかったため、残念ですが断念した。大変良い事業であるので、社協で軌道に乗せてくれれば、と望んでいる。
- ・ 3番目の小さな憩いの場の整備に、河川敷に三角まん丸広場を整備、桜の木を植樹、1本は天皇在30年記念植樹となった。定期的な整備作業を実施し、桜の花を咲かせるようにもなったが、令和2年の大雨災害で、まん丸広場の土手が崩れ、河川の堤防決壊し、現在国の整備のため、通行止めになっている。三角広場は、駅の花植えや草刈の作業などを整備している。
- ・ 他31の活動は、ほとんど順調に進んでおり、その中でも困難なものは、先ほど市長からもあったように、自治会加入の促進や、自治会、自主防災組織の作成など自治会に関するものがある。これは、地区コミュニティ協議会だけではなく、人も協力しながらでないと、実現は難しいと感じている。無くなったものは、子育てサロンとコミュニティフェスタである。子育て世代で専業主婦が少なくなり、ほとんどが動いていない。昼のサロン時間帯に親子での参加が少なく、10年間、月に1回実施していた子育てサロンを休止することとなった。フェスタは運営側が高齢化して、演者も作品展示者も設営や運営が困難となった。大型パネルを30枚近く設置したり、テント張りしたり、体育館や外を使うなど、大きなイベントなので、無理という声が出始めた。何か手立てがないか、若い方の協力がもらえないかと2年がかりで協議し、規模縮小の提案したが、皆さんの意思が固く、演者、運営側ともに休止という苦渋の決断であった。

- ・ 12月の目玉のイルミネーション事業が軌道に乗ってきたので、子育てサロンやコミュニティフェスタに代わるイベントを開催し、地区の方々に喜んでいただきたいと考えている。
- ・ 令和元年度の地区振興計画策定時には想定できなかった新型コロナウイルスの感染拡大により、できなくなった事業もあるが、逆に「コロナに負けんぞ事業」として立ち上げた「隈小せんだんの木イルミネーション事業」は、ここ2年、大変順調である。同年、大原野池公園のパークゴルフ場も開園し、去年は、パークゴルフ大会も実施、第4期地区振興計画以外のことも状況を見ながら、できることをできる範囲で報告書に示している。

【永利地区】

- ・ 永利地区コミュニティ協議会の地区振興計画振り返りについて、3点報告する。
- ・ 重点項目である、支え合い、安全安心な地域づくり活動の推進については、見守り支え合い事業で、社会福祉協議会、民生委員、包括支援センター、自治会長、すこやか支援アドバイザー等との連携により、地域の情報を共有し、支援を求める高齢者等への対応がだいぶできるようになったが、今後、さらに高齢化が進む中で、地域住民が誰のために、どんな手伝いができるか模索しながら継続検討していきたいと考えている。また、運営委員、各自治会長に防犯ステッカーを配付し、車に張り付けてもらうとともに防犯防止ジャンパーを配付し、子ども達の登下校の見守り活動を展開した。今後も引き続き、防犯活動を推進してまいりたい。
- ・ 次に親睦を図る健康づくり活動の推進については、市内でも唯一継続している駅伝大会を令和元年の節目に45回目ということで、校区のシンボルである日笠山の山頂まで校区を6ブロックに分け、小学生から40代まで参加し実施した。それぞれの年代で、出走者がいないブロックについては、他のブロックからの応援をもらい、行ったところである。また、この大会には、県下一周駅伝大会の現役ランナーも駆けつけていただき、全区間を伴奏していただいた。沿道には、各地区の住民が応援に出て、選手もその声援に応えるかのように、頑張って走った。子ども達にとっては、青少年健全育成の一環として、郷土愛も育まれたと思う。今後もできる限り、継続していきたい。
- ・ 次に、環境美化活動の推進については、花いっぱい運動として、ゴールド集落にある小原ツツジ園の草刈りや肥料散布を役員等で手伝い、翌年の開花時にたくさんの方が見物に訪れ、人と人との交流が盛んになっている。また、ツツジ園内に遊歩道を設置したことで、間近で花を鑑賞できるようになった。引き続き支援していきたい。また、河川の環境美化活動については、自主活動部を中心に、平佐川へのEM団子の投入と、高牧の池への活性液の流入を実施した。水質検査を実施しながら、今後も継続してまいりたい。
- ・ 不法投棄追放については、看板設置をするとともに、昨年は約50名程度の参加をいただき、山田山自治会から寺山に登る道路脇のごみ拾いを行い、軽トラック6台分のごみを回収した。今後も引き続き、コミ協便り等による啓発活動を行う。

市長コメント

2人の地区コミュニティ協議会会長から丁寧なご報告いただき、ありがとうございました。私も地区振興計画の報告書を縦横、読ませていただき、今、赤崎会長からあったように、隈之城地区においては、若手人材の育成ということで、「コロナに負けんぞ事業」、「隈之城小学校のせんだんの木イルミネーション」、あるいは、三角広場、河川広場の散歩道の美化、それから、大原野池公園のパークゴルフ場の完成と、非常に良かった点の報告があった。

また、改善点として、これも自主組織の非常に大きなことであるが、地区コミュニティ協議会内の自治会ブロックの再編について、これもコロナ禍で話し合いができなかったことも報告があり、これは各地区共通の課題だと考える。

また、永利地区においては、非常に良かった点として、高齢者の見守り、支え合い、防犯ジャンパーを着用しての子ども達の見守りと、青少年育成にもつながる日笠山駅伝大会と、非常に活発な報告があった。また、特に小原自治会のツツジは、私も見たが、非常に目の覚めるようなツツジ園であった。これからも人を寄せる広告のシンボルになるのではないかと考える。

それから、課題的な報告もあった。美化事業として不法投棄追放で、地元が頑張っていることは、非常に良いことであるが、トラック数台分のゴミがあるということは、さらに注意喚起を要する。今後そういった意味で地区コミュニティ協議会の課題かなと考える。50名以上の方が地道に、法投棄の発見、看板設置、ゴミの撤去に頑張ってください、心から感謝申し上げます。

コミュニティトークも7カ所目で、これまで地区振興計画の報告を各地区コミュニティ協議会会長から受けているが、共通する非常にいい取り組みは、自治の非常に基本的な部分で、子ども達の見守り育成、高齢者に対する見守り、コミュニティの自治会の環境美化、自主防災、防災に対する取り組みと隈之城地区の会長からあったように、イベント開催がこの2年間やむなく中止した部分、それでも頑張って開催した部分があり、これも当分の間、コロナ対策をしながらのイベント開催、地域活性化が課題だと考える。この広い川内南中校区の隈之城地区コミュニティ協議会と永利地区コミュニティ協議会であるが、私が思う川内南中校区のあるべき姿、方向性は、やはり、川南地区の広大な住宅地、交通の要所というのがベースにあり、薩摩川内地域の中心的位置にあると考えている。全体的にコミュニティのレベルで申し上げると、コロナを克服し、3年前のコミュニティ、自治会の組織、行事、イベントの開催を取り戻すことが、まずは大きなことだと考える。その中で、地区振興計画の見直しながら、これはどうしても今後も総力を挙げて続けていかなければならないということの議論も、必要になってくると考える。

薩摩川内市の人口減少と人口差のことを申し上げるが、薩摩川内市は48地区コミュニティ協議会がある。1番大きなコミュニティが、平佐西で、約1万4,000人。当地、隈之城は、約1万2,000人、永利が6,500人です。1番小さな地区コミュニティ協議会は23人である。合併当初からその構図は変わっていない。48地区コミュニティ協議会の共通課題もあるが、個々の課題は、その地区で議論し、どうしたら持続可能になるか、どうしたら隣のコミュニティと交流できるかというのは、各々が自主的に語っていかねばならないということを申

し上げる。

それから、薩摩川内市内に自治会が556ある。その中で、1番人口が多いのは育英地区の鶴峯自治会で1,713人と単体の自治会で1,700人を超えている。これも各々のコミュニティと一緒に、この人口差の中で、みんなが頑張っているということである。先ほども申し上げたが、自治会、地区コミュニティ協議会、色々人口差があり、個々もあるので、地区振興計画の見直しも、各地区担当職員を張り付けて、市も一緒に、課題や報告いただいたことを検証しながら、次の5カ年計画を作っていきたい。

最後に議会からも指摘がある、自治会の再編・合併について、再編の中の合併ということについて、自主的に隣の自治会と合併してみようかという議論が起こったら、市もその話し合いに参加させていただいて、いろんな課題を共有しながら、各自治会、それからコミュニティ自体が持続可能な長続きするような議論を、一緒にやっていきたいと考える。

事前提出議題

議題1 大原野池公園（パークゴルフ場）のさらなる充実とそれを活用した賑わいの創出について【隈之城地区】

開園2年が経過し、パークゴルフ場利用者はコロナ禍にもかかわらず、固定利用者を中心に順調に推移している。しかしながら、利用者から2コースではなく、公認コース4コースを望む声が非常に多数寄せられている。

加えて、パークゴルフ場だけでなく、その周辺の地形を活用した、生かしたトレッキングコースなどの整備を望む声も寄せられている。

については、パークゴルフ場の2コース増設拡充とトレッキングコースなどの整備を行い、公園全体のさらなる充実を要望いたします。今後、大原野池公園が隈之城地区の住民が親しく集い、賑わいも、お客様の要望に応えるべく現状の施設を利用して、仮設の2コース増設を都市整備課の協力のもと、当協議会で工事することといたしておりますけれども、市外からの来場者、鹿児島方面からの来場者が間違っ
てエコパークの方に行っていくということがよくあります。手前のはっきりした看板設置を要望するところでもあります。よろしくお願ひします。

未来政策部長

パークゴルフ場のさらなる充実とのご意見でございます。まず、隈之城地区コミュニティ協議会の皆様におかれましては、指定管理者として、公園利用者が安心して、そして快適かつ楽しく公園を使用できるように、常に適正な維持管理に努めていただいております。深く感謝申し上げます。ご案内の通り、大原野池公園は、地元の皆様の要望から整備計画がスタートしております。

用地の関係で当初の構想から縮小して、現在の形、2コース18ホールになっているところがございます。先ほど2コースの増設についてのご意見いただきましたが、公園の整備後、今2年しか経過してない中であるため、すぐに整備を行うことは難しい面があります。現在の施設を最大限活用する方法を行っていただき、今後施設の利用状況を踏まえた上で、トレッキングコースも含め、地区コミュニティ協議会の皆様と一緒に調査研究してまいりたいと考えております。

エコパークへの侵入路間違いに伴う看板設置については、現在大原野池公園と表示している看板の3カ所設置しておりますが、そのうち2カ所については、パークゴルフ場の表示も追記するよう、既存の案内板も改良するというので、もう発注、今しているところでございますので、もうしばらくお待ちください。

手前の進入路間違いにつながる看板の設置につきましては、また別途協議をさせていただきたいと考えております。

市長

今、部長が申しあげましたように、このパークゴルフ場は、用地買収の関係からという経過があって、現状になっております。それで暫定的といいますか、今、仮設の2コースプラスでありますので、しばらくこれでやっていただきたいということと、あとは、その仮に拡張の議論するのであれば、用地の見通しがなくなかなか踏切れない面がありますので、そこは会長さんをはじめ、地元の方とお話をさせていただきたいと考えてます。

【追加意見：隈之城地区】

先般ですね、古川部長と話す機会がございまして、私ども地区コミュニティ協議会で受けたからには、少しでも賑わいの場を作りたいということで、今の状況、コロナ禍ではなかなか難しいが、いろんなイベントをして、人を寄せたいという計画を持っております。しかしながら、公園内の看板を見ますと、火気厳禁というのがございまして、火を使えないとなると、いろんな催事をするにしても、飲み食いが良いというわけじゃないでしょうけど、やっぱりそういうことを合わせてやりたい。そして、人が集まるようにして、例えば出店をしていろんな人が来るようにして、催事をしたいと思ってるんですが、どうしても規制があるものですから、このような場合でも催事ができる方法がありましたら、教えていただければと思います。

未来政策部長

イベントで人を寄せたいというのは、私共も同じ考えです。火気厳禁の取り扱いについては、芝生の養生の関係かと思っておりますので、出店規制について方法はないかということですが、実施できる方法を一緒にまた検討させていただきます。

【追加意見：隈之城地区】

いい答えをください。

未来政策部長

養生の部分、芝生を守る部分は、守っていただきながら実施でいる方法はないか、一緒に考えさせていただきます。

【追加意見：隈之城地区コミュニティ協議会会長】

大原野池公園に関しまして池がある。山からの水がすごく池に溜まるもので、用水路の排水を板の弁で仕切っている。弁の上げ下げをお願いしているが、水が増えると危ないので、対策は考えられないでしょうか。

未来政策部長

水門を開ける板を手で空け閉めしてるので、危ないとのこと意見である。管理して

る土地改良区と一緒に、整備方法を検討させていただきたい。

【追加意見：隈之城地区】

大原野の居住者であるが、公園の利用にあたり、パークゴルフだけでなく散歩もしたいが街灯がない。安心して夕涼みがてら子供たちと散歩ができるように、街灯をつけてほしい。

あと、今水についての話があったが、池の水は田んぼの水となって水利組合が関係するので、きちんと話し合いをしてください。

1番に要望したいのは、道路沿いに自分が住んでいるが、エコパーク東側と西側と入り口があり、公園に遊びに来てくださることはいいことであるが、スピードを出される。スピードは出さないようにと注意看板も設置し、警察の巡回を依頼している。そのところの対処の仕方、高齢者も散歩されるので、十分気をつけるよう放送もしているが、他の地域から来る人が多く、危ないなど感じている。

未来政策部長

大原野池の件は、おっしゃる通りであるので、協議しながら検討をさせていただきたい。

それから、通行車両のスピードについては、パークゴルフの利用者、それ以外の方もいるかと思う。利用者に関しては、指定管理者である地区コミュニティ協議会と利用者への働きかけ、啓発のタイミングを見ながらしていただくよう、今、共有できたので対策してまいりたい。通過交通については、警察にも依頼とのことであるが、これも地域全体の問題や、地域外の人を通り抜けということもあると思われる。事故が無いことが1番であるので、我々も一緒になって対応させていただきたい。

最後に、街灯の件は、利用の実態を踏まえて検討する必要があるので、地区コミュニティ協議会の指定管理者とも話をしたいと考えている。

議題2 山田隈之城線の歩道設置について【永利地区】

この路線の整備については、過去にも要望し、現在も鋭意整備をいただいているところであるが、通学路となっている本路線は、交通量が多く、子ども達の登下校において、非常に危険な状態になっている。また、上手自治会周辺においては、宅地開発が急増し、それに伴い、児童生徒も増加している状況である。特に上手自治会館付近では、畑の法面がずれ落ちて、側溝の蓋半分まで塞いでいるような状態である。

そのため、子ども達は車道に出なければならない時もあり、このような状況の中、永利小学校PTA、地元自治会の要望を受け、鹿児島県北薩地域振興局の職員、県議会議員、市議会議員、地元自治会長、PTA会長、コミ会長が現地調査を行い、県に早急な整備のお願いをしたところである。

先日相談に行ったが、この側溝の蓋半分が埋まっている面については、早急に処理をするような話であった。地域としては、地権者への歩道設置の必要性を説明し、協力をお願いをしているところである。

市からも、早期整備の力添えをいただきたく要望する。

福元副市長

会長から話があったように県道336号山田隈之城線は、道路の管理を県の北薩地域振興局が行っている。北薩地域振興局に問い合わせたところ、先々月、6月3日の日に、現地で地区コミュニティ協議会の役員を中心に、関係者と北薩地域振興局と現場で立ち会いがなされ、県としても通学路ということで、安全確保が必要であるとの認識を持たれていた。先ほど話があったように、地権者に地区コミュニティ協議会から協力依頼をいただいているとのことなので、市としてもその動きを後押ししたいと考えている。

まずは地区の要望書を県、市に出していただき、意思表示をいただければ、県市とも動きやすいので、その点、お願いしてあると思うが、よろしくお願ひしたい。

市長

要望の路線は、私もよく通る路線で、今日も現地を確認した。写真でも川内南中、永利小へ西に向かって歩いていく子ども達が相当多いことを確認している。

現地立ち合いを県、県議とされている。県には思いが伝わっているが、手続き的には副市長も述べたように要望書が必要ということと、公共事業の1番大事な用地買収を地元の土地所有者と地元と見通しが立つような協力をぜひお願ひしたい。公共事業は、用地の見通しが立てば手続き的には相当進み、要望が早い時期に叶うので、引き続き協力をお願ひする。市も一生懸命やるので、よろしくお願ひする。

【追加意見：永利地区コミュニティ協議会会長】

県の方には、2、3日前に要望書を出しておいた。よろしくお願ひする。

フリートーク

【意見：隈之城地区】

青山自治会長です。今日、色々な取り組みを聞いて、いろんな問題があると改めて認識した。1つ大原野池公園について、街灯をつけてほしいという要望が出たが、薩摩川内市として、数年前、新エネルギー対策監が、経済産業省から出向し、市をエネルギーの街と位置付け、当時は、学生などに薩摩川内市についてどう印象を持っているかと色々若い人の声を聞き、市内が暗いということもあり、解決するため、産官学連携により、株式会社岡野エレクトロニクスやポリテクカレッジ川内などの電子機器の専門家が一堂に会して、隈之城や市役所にスマコミライトを設置した。太陽光を蓄電して一晩中電気が点くようにと、完成時には、群馬県からも発注があり、ニーズが高かったが、その後どうしたのか。青山自治会の公民館にもスマコミライトをつけていただいて、一晩中入口を明るく照らしてもらっている。市内の暗いところに、防犯の役目も兼ねて、省エネの形でライトが設置されているので、再度それを使ったらどうかと考える。企業の連携が、続いていると思うが、それを活かしていけば、自前の作品であるから外部から買うよりは、経費的には安く上がるのではないかと考える。

今日は、田中市長以下、色々説明があり、これから川内川河口域の再開発をどうするか、久見崎の話もあり、火力発電所の跡地についても、新しい企業誘致を考える中で市が全国に知られているのは川内原発がある関係もあるが、エネルギーの街と県外の方は捉えているので、それをキャッチフレーズにし、企業誘致をしながら、

企業連携を図り、新たな事業を創出する形ができて、少しずつ基盤にできていけばいいのと感じた。質問というよりは、感想ということで、発言させていただいた。

市長

ありがとうございます。市の再生可能エネルギーの取り組みについては、岩切前市長が積極的に取り組み、私も県議13年の間に、この取り組みは、県内でも先駆的と高い評価を受けている。

スマコミライトが出たが、企業連携協議会との関わりは、協議会会長とも若者の雇用の創出、それから再生可能エネルギーを通じて、引き続いてやっている。市全体の政策として、今、SDGsカーボンニュートラルにおいて、新しい再生可能エネルギーを含む取り組みになっているので、ただ今いただいた意見も踏まえて、市の新しいビジョンの中で議論してまいりたい。

冒頭報告したように、これからは持続可能な市の在り方、産業も、自治会も、コミュニティも、誰1人取り残さないということと、全体的な環境配慮の政策が必要なので、市全体もご意見を踏まえ、私共も取り組んでまいりたい。

【意見：隈之城地区】

隈之城地区コミの都自治会長です。先ほど市長から説明があった通り、昨日今日、山形県で豪雨が発生している。避難所の開設の時期は、大雨洪水警報が出され、災害の恐れがある時は、高齢者等避難というのがマニュアルに書いてある。ということになれば、その時期には避難所は開設されていなければならないと考える。その時期を教えてください。

市長

今あったように、市役所の災害対応の基本的な始まりは、気象庁の大雨警報、それから土砂災害警報、線状降水帯情報と悪くなる段階ごとに対応し、市の部長級が本部長の警戒本部、市長が本部の対策本部を持っている。段階的にレベルは作ってある。避難所開設は、状況にも色々あり、先月の線状降水帯予測が出た時は、1ランク早い段階、大雨警報の段階で避難指示を出しており、それに連動した形で、避難所開設を議論した。

目安はあるが、その状況、時間帯、雨の降り方、その後の見通しによって、今朝ほどテレビアナウンサーのコメント、気象庁のコメントもあったが、安全な場所に身を置くということ、必ずしも避難指示の発令自体が、避難所への避難にはならない場合も稀にある。機械的にある段階に達し、避難指示を出しても、全て避難所を開けないこともある。ケースとしては少ないが、状況によりけりである。

おっしゃるように、大雨警報、土砂災害、線状降水帯等、事象が悪くなる前に、我々は警戒本部の部長級の段階から、市の職員には自治会長と連携し、いつでも避難所を開設できるようにとやっており、前回の線状降水帯予測の場合も、祁答院町と入来町であったが、支所避難所、避難できる場所は開設していた。一度で説明できないが、基本的には、市として段階に応じ、避難所を開けることは、大原則であるが、そうでない場合もある。それから、避難所開設を、職員に指示したとしても、放送としては、安全な場所に身を置いてくださいと、防災行政無線の屋内放送になることもあるので、理解いただきたい。わかりやすく言うと、今まさに北陸、東北

はそうだと思うが、夜の2時頃、線状降水帯、時間100mmが降っている。その時に職員は避難所を開けられるが、避難所が開設されていても、首長は、夜中100mm降っている時に避難所への避難ではなく、垂直避難か近くの頑丈な建物に避難くださいということになる。一度では説明できないが、基本はおっしゃる通りで、具体的には、時間帯とか、災害事象の見通しによることで理解いただきたい。

【追加意見：隈之城地区】

提案であるが、例えば青山公民館、都公民館それから宮崎公民館、坪塚自治会館と、職員が夜になってから出るのは大変だと思う。自治会長がいるわけであるから、指定避難所については、そういう方々にお願ひし、「ごめんやっどん、夕方避難所を開設してくれんけ」というのも、できるところとできないところがあるわけですから、自治会長に協力いただけるところは、協力をもらえればいいかなと思うので、検討されたい。

【未来政策部長】

ご提案ということで、受け止めたい。その他の自治会単位で、避難所を開設、設置されてるところもある。熊本などもそうであったが、長期の避難生活となる時には、市が設置した指定避難所よりも自治会避難所の方が過ごしやすいと、うまくいった事例もあるので、そういったことも含めて、また色々研究検討させていただきたい。ありがとうございます。

【市長】

私の方からも非常に大事なことで、今日明日起こりうることであるので、ぜひ、自主防災組織、それこそ自治会、地区コミュニティ協議会の存在意義だと思うが、声かけ見守りと、災害の危機管理にも自主的に、例えば自治会長が隣の方にうちの家に来ませんかとか、あるいは緊急避難の仕組みとしてできていないが、避難所を自治会長に頼んで開けてもらうとか、制度としては、自治会避難所もあるので、いかに結果的に人的被害が生じないかということが求められるので、そういった実際の自主防災組織も、現実的に議論していただきたいと考える。

ご案内の通り、薩摩川内市の人口は9万2,000人で、市職員は1,000人である。1,000人の職員の方で、9万2,000人に人的災害が起きないか、声かけすることは、かなりエネルギーがいる。申し上げたいのは、9万2,000人の市民の皆様にも、ご参集の地区コミュニティ協議会、自治会の皆様にも、市職員と一緒に、我々も一生懸命やるが、隣近所に「あんなかで、あたいげいにきやん」とか「公民館をあけちゃって、避難しませんか」という声かけを自主的にやっていただければ、我々も非常に頼りにし動きやすいと思う。これからも議論させていただきたい。

【意見：永利地区】

永利自治会長です。自治会長に依頼するとあったが、現段階で永利は28自治会あり、その半分は自治会長1年目である。自治会長を3、4年続けている人ならば、大体が自治会の内容をわかっているが、今年4月から自治会長になった人が約半分以上いて、その人たちにコミュニティを開けてくださいとか、そういう要望は無理

である。実際、自治会長会議の案内を出しても、3、4自治会は、全く応答がない。対応として訪問し、自治会長に伝えるとことはやっているが、避難所開設は、消防関係の人に依頼した方が1番早いと考える。その消防団も、団員が少ないと思う。コミュニティの避難所開設は、いろんな方法を検討した方がいいと思う。自治会長には、無理な話である。自治会長も高齢者であり、若い人が自治会長ならば、すぐ行けると思うが、自治会長も実際危ない。同じ自治会長でもツーカーの人もいるし、右も左もわからない人もいる。そういうことを、踏まえた上で、検討いただきたい。よろしく願います。

市長

ありがとうございます。私の言い方が雑であった。整理すると、避難所開設の責任は市にあるので、市が責任持って行う。申し上げたかったのは、自主防災組織的な考え方であり、市の目が届かない段階時は、隣近所の声かけ、人的災害が出ないような取り組みの検討をお願いしたいという意味である。義務的に避難所を自治会長に開けてくださいというお願いではないので、そのような理解をお願いしたい。

【意見：永利地区PTA会長】

この前、学校給食の運営会に出席した。ウクライナ情勢や物価の高騰で給食費が上がるということで話があったが、未納金が1千何百万あるということで、毎年、その会で未納金について質問するが、どうにかする。話し合っていくとの回答を毎年もらうが、結局、未納金はどんどん増えていく一方である。保護者からは「児童手当から引けば良い」との意見も出たが、「児童手当の支給目的と異なる」との説明であった。未納金を早くどうにかしてほしいという保護者の意見である。よろしく願いたい。

未来政策部長

給食費の未納の問題は、永利小だけでなく、全市的な課題でもあると十分認識している。個別の対応が2つあり、従来の未納金の話と、ウクライナなどの経済的な影響もあると認識している。今日の意見は、教育委員会にもつなぎ、検討を進めるようにしたいと考えている。